

各会議の実績報告

1. 地域移行支援検討会議:地域基盤の整備の軸

【目的】

長期入院者の地域生活への移行を促進するため、文京区の基盤整備のための取り組みを強化する。

【実施内容】

- 地域移行支援を利用している対象者の事例共有
- 長期入院後に退院した人の状況を検討、意見交換
- 長期入院施設を対象とした調査(障害者(児)実態・意向調査)の検討・協議

【結果】

- 世帯分離し生活保護受給するとケースワーカーが付く等支援が増えた可能性もある
- 入院が長期化し退院意欲が低下した方への意欲喚起への関わり
- 家族からの一報で入院を把握し、ケース支援開始となった

【意見】

- 経済的支援は家族の支援があると生活保護の受給は困難
- 移行給付後、頻回訪問し本人の不安を丁寧に確認することで関係構築
- 病院と早期から連携を取れるような働きかけが必要

【事例検討意見】

- 社会資源が整備され色々なサービスが利用可能
- 長期入院を防ぐために早期よりつながってアプローチや定期的な関わりが必要
- 病院と早期から連携を取れるような働きかけが必要
- 日頃から区事業等を区民へ広く周知する
- 本人と家族との妥協案を見つける
- ピアサポーターの話を聞く機会の創出
- 長期入院者状況確認票を見直し、改正版を作成

【医療連携】

- 会議等にて一同に介すことで、顔の見える関係性が作られ、共通認識を持った支援が可能
- 医療機関と地域との相互理解および連携強化の推進を図る

1. 文京区地域移行支援検討会議実績

	開催日	内容	開催方式	参加者数
第1回	5月17日	1. 会議の目的と位置付け・R5 年度地精協報告 2. 前年度の都内長期入院者調査結果報告 3. 1年以上入院したのちに退院した事例の共有(2事例) 「60代 男性 統合失調症 入院期間 2年半」 「70代 女性 統合失調症 入院期間 3年」 4. 協議 医療機関連携について	対面方式	23人
第2回	8月16日	1. 1年以上入院したのちに退院した事例の共有(1事例) 「80代 女性 脳梗塞後認知症 入院期間 9年半」 2. 長期入院者質的調査に関する報告 令和4年度調査の進捗 次回調査に向けて 医療連携に対する取り組み状況 3. 協議 「70代 男性 アルコール依存症 入院期間 11年3 か月以上」 退院支援を行う場合に考えられる課題と解決策案に ついて	対面・ リモート方式 ※台風接近に て	21人 (会場 14人 +オンライン 7人)
第3回	11月15日	1. 1年以上入院したのちに退院した事例の共有(1事例) 「40代 男性 統合失調症 入院期間 1年」 2. 長期入院者質的調査に関する報告 K 病院訪問結果 N 病院へのフィードバック結果 医療連携に対する取り組み状況 3. 協議 「80代 女性 統合失調症 入院期間 20年」 再入院および長期入院を防ぐための支援について	対面方式	26人
第4回	2月14日	1. 1年以上入院したのちに退院した事例の共有(2事例) 「60代 男性 気分障害 入院期間 1年半」 「10代 男性 広汎性発達障害 入院期間 1年半」 2. 長期入院者質的調査に関する報告 医療連携に対する取り組み状況 令和4年度調査の報告 3. 協議 長期入院者状況確認票の見直しについて	対面方式	22人

2. 文京区精神障害者支援機関実務者連絡会:支援体制の整備の軸

【目的】

区内精神障害者支援機関の連携及び職務遂行能力の向上を図るため、区内精神障害者の地域生活を支援するための保健・医療・福祉の連携による支援体制を構築する。

【実施内容】

- ・ 第1回:精神科薬と地域における薬剤師の役割を知る。
- ・ 第2回:文京区における地域生活支援拠点の取り組みと特色を知る。
- ・ 第3回:事例を通して、高齢福祉分野と障害福祉分野それぞれの専門性を活かした支援と連携を知る。

【感想・意見】

- ・ 第1回
 - 薬剤師の仕事は、幅広く、知らないことだらけで興味深かった。
 - 残薬整理や外来服薬支援など、もっと薬剤師に頼っていいことを知った。
 - 日頃の相談で答えに迷っていたことを、薬剤師に聞くことができた。
- ・ 第2回
 - 各拠点の活動内容と特色のある取り組みを知ることができた。
 - 各拠点の地域に根差した取り組みが、連携や協働の参考になった。
 - 拠点を利用するときの心構え、連携のコツが具体的に確認できた。
- ・ 第3回 アクションプラン
 - 怖がらずに相談する、相談されたら受け止める。
 - ベテランへの相談は怖いと思われないように、包容力を持って一緒に歩む姿勢を意識したい。
 - 家族と事業所と連絡を取り、顔の見える関係性を作る。

【課題】

- 診断を受けていない、サービスにつながっていない、8050 問題等の対象者が顕在化
フォーマルな支援にとどまらず、支援の細分化、機能分化が求められると同時に、複数機関での連携体制が必須に。
- 複数の機関・事業所にまたがる連携体制の構築

2. 文京区精神障害者支援機関実務者連絡会実績

	開催日	内容	開催方式	参加者数
第1回	9月6日	<p>1. テーマ 知られざる薬剤師さんの仕事～見えないところで支えてる～</p> <p>2. 講師 文京区薬剤師会 成塚康之氏</p> <p>3. 内容 精神科薬について(うつ病) 薬剤師の仕事内容について 講義を聞いた感想・質疑応答の共有</p>	対面方式	24名
第2回	11月22日	<p>1. テーマ 文京区の拠点を知ろう</p> <p>2. 講師 障害福祉課 小松幸博氏 障害者基幹相談支援センター 荒木田紘子氏 本富士生活あんしん拠点 樋口勝氏 駒込生活あんしん拠点 行成裕一郎氏 富坂生活あんしん拠点 高田俊太郎氏 大塚生活あんしん拠点 雑花麻紀氏・堀田幸代氏</p> <p>3. 内容 文京区地域生活あんしん拠点について 障害者基幹相談支援センターについて 各拠点の紹介(本富士・駒込・富坂・大塚) 講義を聞いた感想等の共有</p>	対面方式	41名
第3回	2月21日	<p>1. テーマ 連携って面白い！～事例から学ぶ連携のヒント～</p> <p>2. 講師 高齢者あんしん相談センター本富士 中谷伸夫氏 本富士生活あんしん拠点 樋口勝氏</p> <p>3. 内容 事例紹介(高齢分野と障害分野の連携事例①②) 参加者同士で感想や経験談を共有 講師からのメッセージ(連携のコツ等) アクションプラン作成・共有</p>	対面方式	37名

3. 文京区地域生活安定化会議:個別支援の検討の軸

【目的】

精神科未治療者や治療中断の可能性が高い者、通常の障害福祉サービスの利用ができない者を対象とし、治療継続や見守り支援などを行い、治療中断による病状悪化や望まない入院を防ぐ。

【実施内容】

- ・ 安定化事業対象者の現況共有と事例検討
- ・ 新規安定化利用希望事例の共有と事例検討
- ・ 精神科医からのスーパーバイズ

【事例検討意見】

- 医療的な見立てを受け、対象者の病態や薬物治療の効果など、対象者が理解しやすくなった。
- 介護保険への移行が事業の区切りだが、新しい支援者との関係構築の丁寧なサポートが必要。
- 薬物療法だけでは、病状は安定しない。薬の追加・増量ではなく、日々の関わりで行動変容を図る。
- 病気をもつ対象者をケアする家族の事情と苦悩、家族の心情への歩み寄りの難しさがある。
- 対象者の感情表現が、不器用・不適切であるがゆえの対人関係構築の難しさがある。
- 対象者から負の感情の吐き出しを受け止める支援者が、疲弊しないような配慮が必要。
- 本人に判断を委ねつつ、状態悪化時の介入ができる体制(最低限の見守り支援、関係構築)が必要。
- 本事業は、単に受診同行するだけでなく、対象者との対人関係構築のための支援が必要。
- 家族の医療拒否がある対象者は、対象者と家族それぞれに対する継続した支援が必要。
- 老いに寄り添い、他者のサポートを受けて生活することを受け入れるようになった。
- フォーマルな支援に当てはまらない内容も含め、対象者の生活全般に関わらざるを得ない。

【課題】

- 対象者と対象者の生活を支える家族の高齢化への対応
- 当事者、家族、支援者それぞれが横のつながりを持てる場へのアクセス(情報集約)
- 病気を持ちながら生活することの具体的なイメージが持てるような機会・場の創出

3. 精神障害者地域生活安定化支援検討会実績

		内容	開催方式	参加者数
第1回	5月21日	1. 地域生活安定化支援事業について ※障害福祉サービス等報酬改定:通院同行の加算 2. 本会議について 3. 支援計画書・支援実績表(個票)・実績カウントについて 4. 現況報告(新規・再開・終了)	対面方式	14名
第2回	8月6日	1. 現況報告(終了2件) 2. 事例検討(1件) 3. 事例共有(1件) 3. 新規導入検討(1件)	対面方式	16名
第3回	11月26日	1. 現況報告(新規2件) 2. 新規利用相談事例の検討(1件) 3. 新規利用相談事例の共有(3件) 4. チラシ、事業フロー様式改訂の検討	対面方式	18名
第4回	2月18日	1. 現況報告 2. 新規利用相談事例の共有(1件) 3. チラシ、事業フロー様式改訂	対面方式	12名